



13
遠
號卷

木清

小野篁八十嶋かけ巻之七之上

○第十九回 志はくす

柳山陰道に屬せし隱岐國ハ嶋前鳥後相去三十十八里。出雲の
三尾岡。嶋後小りて海上十八里。おゆく鳥前に至る海上三十六
里四郡。へりこゆ。知夫海部。周吉。穩地。さて官韋船。海部
郡につく。陸。嶋。小田畠。赤田塹。柘肱。流刑。びとの呻
吟。あかれて人跡罕みて。冬枯のうちふと松林。幹。公つた。猶く天日滅
園。ひ。白晝。朦朧。さて東西。がりうがごく。づみに仄暗。ふ雪。ふき
もく。暴風。石。公。動。木。公。伐。林。莽。を。壘。殺。北洋の極。屬。山。林。よ
抵。て。は。激。叱。叫。突。諫。交。墨。より。が。う。う。ふ。朝。烟。だら。う。幽。闇。
領。ト。は。硫。黄。の。り。か。れ。大。を。う。そ。う。に。そ。そ。に。し。と。卓。も。ま。ぐ。て。陽。

界れありさまともれり。そのふそ陥しことく。那觀佛三昧經
起世經向地獄經地藏十輪經等に說きし。奈落の相不彷彿るゆゑ
ふうの嶋城冥途とりひ慣らすも宜なり。董卿へアモトシナウニ
キ。たりひきや争斗おう陥かくべーとんち。あもかく教ところふ住や
そそんと。ゆもゆめばうう。轍く衙内につよ。及矛など達
つとひく。劍林刀樹ふ齊しく。枷鎖枷械はも先とうぐう。さてこの
列の懸令司馬圓左衛門とりくろの相貌のみふ髪と眉の皚々宿雪
のぢく。血色の煌々熟東とよ似く。支體體雙鍊とく豪俠みく。
勘のあくねく。流刑みく。すわらう。の罪の脛重が糺し。日夜責人嘗
業。燐魔王に髪方髪はく。佃本までも閻王とゆきりひ慣ふ。決曹
獄吏。馬場典膳牛嵩兵太きどりう。れのづううれ牛頭馬頭かも。

目ゆくを看ね。犢禪禪の臯毘迦や帰びとん。流人よ命令て汝が歎せ。
潮が熟せ薪を推せ硫黃明礬が塙とく。不寒中より汗流みば。冬天
に血の涙が溢とく。冥府も更ふ外ぬ。層たとく。鐵門又入だ。圓王上
座に棱威。左右小列居。決曹へどもがト十王。秦廣初江宋韋五官并
冥官。地獄我鬼畜生。冥官人間天上。此ごとく。そして警固。一とくし。大理卿へ勅勘の報
演吉皇卿が圓王よ交て。武官へとひく。諸のく。母渡船よ棄てつ。己よ
平安へとひんといがく。て因王奴隸の的をして。ざもくと指揮とひが。皇
卿が援てゆくに。えもあくる。萱けふ。芦膏が廊らく。家うくのく。咸も
すきて。津戸川のやうりう。埴生の蠣廬が指て。あれへ入とひへと。教導
くもまくにつけとく去ぬ。卿が獨う。巷へんにしきと。荊棘茅州路
の塞で。義をうむがく。徑て寒風起り。葛藴のう茂りた。枯れ木も剣

掃^{そらひ}かと門の板戸^は半破^はて。骨のくつき死^し行^{ゆき}よせと入^いまへ。蜘蛛^{アシカ}る
えぐや^ス巣^すびに倒^たて臥^う並^たたる牆に衣^きうへあとども。松^{マツ}ら風^風り。屋
根^ね疎^{まばた}闊^{ひろ}よどぶ。あも^ハ漏^もぐく。壁^べ墮^{おち}れば月^月に入^いぬ。床^ゆと^おは^いき
竹^{たけ}貴^き子^この透間^{すきま}より草生^はす。獸^{けもの}すと居^ゐけん。えもり^りな不淨
まれ^ます。どう^だ國^{くに}て。まも黒^{くろ}づ^づれもやえびざれば。とくせんすぶるされ。
足^{あし}くあば^あへ彷徨^{ぼうはう}とまう。母渡船^ようじゆくつりと水主^{みずし}両個^{りょう}。卿^{きよ}の座右^{ざゆ}
おとをかふ^{かふ}と調度^{てうど}す。直宿^{ただしゆ}りせうど。うふくれと運^うび^うらしが。の
あり^{あり}よまがみ^みく。惻隱^{さくひん}やれりひく。庭^{にわ}枝^えの枯草^{かうぢ}。貴^き子^こ掃^はは^ひ
あや^あの^の筵席^{いんせき}ば^はと。夜^よけの取^と出^だま^ませ。苛^{かく}くも坐^す。ふほ^ほふくう
縁^{えん}ひ。難^{むず}猶豫^うす^す。とく^くく^くう^う。卿^{きよ}ハ袖^{そで}に坐^す。倒曲^{とうく}うれ柱^{しゆ}よ渴^うて。
は^はく^く以^あ推^すあ^あすに。又^{また}守^{まつ}ハ帝^ての御^ご爲^めはれり^は却^かて早良皇^{こう}

懐^{いだき}く^くう^うか^かく^くれ^れど^ども^もぞ^ぞも^も告^ごの^のむ^むと^と。お^おか^かひ^ひき^きう^うう^うと^と。お^おれ^れビ
え^えん^ん怨^怨鬼^き。子孫^{子孫}御^おほ^ほと^と。お^おと^と。あ^あよ^よ翁^翁と^と。お^おと^と。
大枝^{だい}の別^べ壯^うの^の危^き難^難。鞍^{くら}馬^まの^の奴^や藁^{くわ}。う^うと^とび^びの^の流^{りゆう}罪^{ざい}。う^うと^とく^く入^い乃^な貴^き
藉^あか^か償^{めぐら}ふ^ふに^に敵^{てき}と^とり^り。づ^づが^が僥^{きん}倖^{くわい}み^みく^くは^は。き^きや^や餘^よ殃^え散^{さん}せ^せじ^じ。と^とづ^づく^く
憂^うよ^よあ^あふ^ふも^も。だ^だふ^ふや^や盜^{とう}の報^{ほう}。ひ^ひく^くく^くれ^れば^ば。人^{ひと}よ^よと^とも^もう^うま^ま。
大聖^{だい}す^すら^ら陽虎^{よう}の難^{なん}に會^あ。釋尊^しも^も水^み没^没。薪^{いん}を^を擔^{たん}。或^も一^一飮^く。樹^{じゆ}下^げ石^{いし}上^{じやう}。
中^{なか}み^み就^つつ^つが^が神^{じん}代^よも^も大^{だい}完^{わん}年^{ねん}遲^の八十^は神^{じん}の難^{なん}に^あひ^ひな^なじ^じ。更^{さら}
小^ち奇^き異^うと^とも^もふ^ふた^た。夢^{ゆめ}の^の躬^{みの}う^うく。泡影^{はいえい}の^の世^よは^は驚^{おど}き^き。思^{おも}ひ^ひ
とい^いん^ん人^{じん}間^{まん}の榮耀^{えいようと}は因縁^{いんえん}浅^うし。林^{はや}下^げ幽^{ゆう}闲^{かん}氣^き味^み深^{ふか}。づ^づく^くと^とあ
世^よの^のう^うと^とく^く。山^{さん}入^いづ^づふ^ふり^り。ゆ^ゆの^の。憂^うが^が樂^うく^く。壯^うま^ま業^{わざ}う^うべ
け^け。草^{くさ}木^木と^とり^り朽^く果^が。夷境^{えい}邊^{へん}地^じの^の土^どと^とれ^れ。旨^し龜^{かめ}遇^あ本^{もと}。

歸洛ともも。そは天運に付し。そんつぐもらぐも。主上に陵く國賊を
誅戮せざる遺念と。癡情ありの恩愛は妻子にそくつぶる所。それ
より忠膽へ。ありがくまこと頼母鋪。日ひ疾暮ても脚膝詰
もどきりめりゆく。肚裡空きに灯ひゆくて暗き冰雪吹の風寒。簾
に垂れか薦喰あが。壁紙くはと物の間。よろむ雪へ席上につる
ふくれで夜臭ひ躬よ縫ひきど肌層みは栗がほじて鱗甲はるく。
みに纏ふくれ衣被えよ痛くやうえく刀叉に似す。氣寒じて
鼻嗅くもるく血凍て指に祐ぬ。震懾れくいも寝うねを一椀の
粥ごゆゆす。白氏が山居せゆうに尚書省の元の時へ錦帳の
下にありしも。さふは廬山の雨の夜草菴のうちにたゞひこうだ性今
来ねひ賤けぬふ。平安にあら親族のかどうり。さうふまくの伴の

今浮岩居矣あびんや。がの素盞烏尊は出雲よねそへとくわお
りひて人丸が。あひきの山嶺をちくは白櫻れ枝も葉も雪のふ
もくぞと詠けんも。ゆりひあいせうれて掌にしらもへ皂末と珠
數の総も涙の滴して竟夜陀羅尼誦へ。さふに東雲曙明つる
稍ふ。苛く一夜风にしづく。遙あるに人ごゑをされば甚麼的多
んとあらし。農民四五個出づ。手毎に鉛錘打簾川うひ道
まじか。庵よ人あら形勢に現る。群躉くうちに入まづ。藁席よ
かはして。つまづ九郎ハづく。さう。さうふまでうそえちがひふ。どくお
りひ掛けまづうど。平安うるぬあるじ。ん。どくふ煙をあがうは
やうすとみたり。犯うる罪もまた重からず。またもあむ槐門の
貴族うそそかかぬするひよは。えも耐えは看我え。餘う悼く



おほゆども。嘸各漢の庵らと修神てやうのせんへ行慶ちりと
りすよ丁八里正どめほどあつまうへ的理。田畠も雪で仕業ひし。我們
とまぐ。働かん人ひるふもあはせりふぢや。あに平安にうつてまく。
あぐけと、五吉輩も。いまの京のまざつぬゆゑ。鎧に孫す。媽あむ
携。うち連列て賑やう。四五十人びりれ京さうり。うのとたうとみ漢
の家旅宿とまざらや。数日もとも逗留。名所旧跡え物せん。好
えん。遠慮。さふの會釋も奥底も。余礼構りす罵。實駭
でめオタク。卿へ行頬に菫あり。汝壽へ世よりくも。誠實ちうすや
りのく。とくア能かくまよ。とうもふはり。ひてえをせよ。無據だの
きくえり。さふ。とく。誘と躬おほ。猶豫もあうね。ちの實性
ひまき。ようわうて。農民は。輻湊て配當。壁の隕。行扁て土塗。ひく。牆ゆ
るや。ゆきうけん。海津。うみ。名もあう。與うげく。うきう。だらまう。羹
み調。す。す。御ふまう。す。ね。我かく。まよ。御佛。小。挂。ことのあう。食
奥鳥の肉へ謝葷。まよ。ほと。淨膳。まよ。かく。ふのれらも。う。食傳
脊。品。味。樂。り。と。旨。く。と。土器。に。貴賤。の。蘭獨酒。順巡。逆巡。酣醉。うけ。鄙
かもかうたのり。う。り。の。あ。う。う。と。敵。安堵。む。か。う。丁六。り。ふ。や。う。も。此
庵へり。う。と。後。建。し。ぞ。里正殿。へ。議。ほ。う。ん。九郎。ハ。鳴。呼。が。下。あ。う。も。顔は
赤。う。ふ。肩。接。威。偉。委曲。へ。あ。う。ね。も。おり。ひ。い。ど。して。そ。ほ。せ。ん。が。う。

やう。家昔の透。は板。川。挿。故。弔。で。窗。ふ。塞。や。冬。北。日。脚。の。慣。聞。
あう。ひ。ハ。畠。バ。持。く。う。瓶。わ。と。ど。も。安。挑。ベ。味。噌。鹽。生。薪。醸。漬。何。く。れ。
も。う。び。り。て。ま。う。柴。と。つ。の。妻。と。く。団。が。の。け。う。拂。ま。湯。や。ま。と。飲
餉。ち。う。も。う。食。く。妻。要。吃。ん。と。九。郎。ハ。酒。が。温。う。と。の。々。ふ。孤。疾。渾。邊
る。や。ゆ。き。う。け。ん。海。津。う。み。名。も。あ。う。與。う。げ。く。う。き。う。だ。ら。ま。う。羹
み。調。す。す。御。ふ。ま。う。す。ね。我。か。く。ま。よ。御。佛。小。挂。こと。の。あ。う。食。
奥。鳥。の。肉。へ。謝。葷。ま。よ。ほ。と。淨。膳。ま。よ。か。く。ふ。の。れ。ら。も。う。食。傳。
脊。品。味。樂。り。と。旨。く。と。土。器。に。貴。賤。の。蘭。獨。酒。順。巡。逆。巡。酣。醉。う。け。鄙。
かも。か。う。た。の。り。う。り。の。あ。う。う。と。敵。安。堵。む。か。う。丁。六。り。ふ。や。う。も。此
庵。へ。り。う。と。後。建。し。ぞ。里。正。殿。へ。議。ほ。う。ん。九。郎。ハ。鳴。呼。が。下。あ。う。も。顔。は
赤。う。ふ。肩。接。威。偉。委。曲。へ。あ。う。ね。も。おり。ひ。い。ど。して。そ。ほ。せ。ん。が。う。

應夫よ。原らの庵へゆき。福徳天皇様とやうんの御時。う前道鏡たら
りふ人のうちふ。清丸とゆづふ漢。この嶋へ流され。這庵より居り。よ。
我们より生以前のこと。總角のときの事に聆え。よめくちへ住金みと
軒。われハ如斯に毫無も宜也。啞里正刀祿幼雅。くとりを局。が。鬚眉變す
靈。く雪もスス。取何歳にうとうと。たと。りよ。九郎ハ頬霞。屋
くいきの愧。うと。年も破。と。か。やえゆと。指壓垂て。報多仕返と。丁と
知命の載。も。き。と。弄龟首も。や。ね。ば。す。と。お。く。や。く。と。お
益新。タ日斜。ふ。く。け。と。べ。う。く。ま。が。告。く。と。く。我們。へ。這。川。向
獨木橋。む。と。い。あ。ゆ。み。の。と。那。邊。看。村。れ。り。の。ふ。ま。と。よ。代々。孤。死。直
宿。み。は。ま。か。と。じ。盡。と。り。と。石。こ。と。あ。ぐ。る。あ。け。と。キ。み。よ。う。く。
よ。く。不。樂。と。わ。ば。え。と。く。我們。許。を。し。に。出。と。未。の。飯。す。り。と。

推の葉に盛りて。官侍んと。いと懇情の置く。うとは。うとひひちく。
し。おのづ隨意佃夫へ。鑒鑿擔うつゆ。人すは鬼のよみうり。何國すも
かのゆへ。ねじとどそとあくれとあり。松杉ふ。せぬ麗留れ事とく。答
戸戸ひ。柴の戸れ。我よ春とあつむわらん。明る。若菜に故郷の。野邊や
まの日れ志のぞれく。蕪苦蘿蘿葡萄。半夏齊萬々。摘客ひ。脣りび
がりや楠に。さも怕と大鳥れ。巢喫へ巧められ。も。う。雁ぐの歎かく。
帛書に偽。常惠。妻子のたよ。鈎果て。根にかよ。がく。う。見うねたる岩間より。さぐら。藤よ。梢と。由縁。あきどれ。わすれ。漢と
うごく。山鳥の雌。恋ふ。かく。たよ。つと。鏡も。把。ぎ。と。海。び。と。う。れ
り。あづや。山。ゆ。と。す。妻。と。卯花。陰にかく。えび。泣。賡。と。い。ま
れと。づ。づ。草。と。生。よ。ゆ。ん。だ。平安。め。あ。ぶ。叶。づ。ま。と。草。の

壁に這ふ。うの名は憎。庵の戸。叩く水鶴。へ床。と。鐘。ふ枕。歌で。
四方れあじふらりふ。ゆつて吹る。斗宿。みへ。鏑。玲瓏。と。腸を。轚
蟀。鳴く。蓑虫。父。よく。躬。に入。列。ふ離。旅の雁。雲井。の余。天。と。夕。ひ
ちふ。き。りふ。夜の宿の月。の貞め。不。瞬。つ。た。是。函。に。ゆく。空。北風。
嘶。胡馬。に。齊。く。羣。手。柿。漆。う。ど。れ。中。儻。弓。絃。葉。の。紅。葉。せ。ど。歸。洛。の。時。も
あ。ほ。と。木。葉。や。す。そ。て。渾。然。と。落。す。ゆ。き。ど。へ。剣。や。う。と。敷。堪。れ。枕。淳。ば。う。
友。う。き。つ。く。衛。さ。へ。や。ほ。く。て。夜。く。寝。じ。海。の。月。影。柔。軟。と。飄。泊。う。へ。
雲。娶。し。て。お。う。み。や。う。と。み。う。の。か。け。れ。や。と。と。あ。く。れ。よ。う。う。き。ふ。憑。く。に
つ。ま。う。罪。あ。う。と。て。み。ま。う。き。う。の。荒。礪。曲。に。す。む。月。の。が。げ。と。う。や。う。教。導。す。
え。お。へ。汝。塗。一。配。所。の。ま。あ。雪。惨。澹。澹。飄。晝。て。竟。往。冉。と。春。秋。せ。代。謝。ふ。ま。益
に。と。一。ま。ち。う。ふ。や。つ。ま。し

。たゞひよどりまれり。されよおとまへて。おま此程あこいそぎりせんもは
泉郎めいろうれ袂たれに乾かくぬめ。の鳴守なるしゆれり。袖そでに乾かくぬめ。呉蓋ごあわにかくらもそ
くらぬめのうへや。屈平くつひやうが澤畔たくばに吟ぎひくらじ。風流ふるよほ劣あだれど。柴煙しばえん此歇やふば待まつ
く。夕陽ゆふひが送おり素月すづきが迎むかふ。また謫居ちきゆの勝槻かつつきをう

。山ざくはりひきびとあうめとよみよかくもま
かととくも塙の外よ梅ちくと杏りけどやまんたらけづ。
風と眼遣ゆに。う鳴のりれゆあひぬ。若き物部れ彷徨て。までみ庵にひ
んといひゆとすとが。坐ゆて。何漢をりんと猶豫居ゆ

○ 第二十回 もくじ
却説小野家士ふ二代の忠臣松人忠勝。清香の前より不慮。便隸として
隠岐國へ渡らんと。使の聽へてのゆゑに。未だ細々訟て御許翰。辨受又

清香前の答簡。流人への文通の尙所。
嶼ふつと。國の守圓王より改めゆるを。とくわふ首にうけ。舟路歴々との
出と。因王へ使の聽の翰と読するつら齋。こゝりし韜りのふも答。熟悉悉す
俊ち。良久く。客子うしげふ打不瞬。稍みて差引。津戸川の庵は教導す
くも。ひ忠勝へみまつゆよそく。だくみ。獨の草は敗蘆。疑惑か
妨嫌御す。まひはあじとおり。ど外よ家だふあづれが。づてたづ
ぐやと。経の木の葉滑けく。斜ふ傾く戸の外より。熟きそればうの枝と。
維摩の十笏かもれく。寝處よも臺盤みも。方一丈三はとざり。る
あやの畳は襪の毛席とも。おりておもす。寝猿。ゆと。進趙のへ渡
き。ぎやくと。ふ衝立。蘧屢風。汗擦除く。とく忠勝うじどや那憐
袋。しらうるまく。がくき。れく。うと。さす。よき。の腕うろき忠勝の躰躍。

これ御光景の悲しき。視をうて胸うごり。まとさんやすもゆき也
卿のまゝく。何等のことあく。官聽は免許あく。まつて。や。平安の
形勢ひと不安堵。すづ問尋。ひとへ帝ふも院ふも。平穂よつて。こもふ
歟。后宮女卿うどふも。異ねうと。とよやと。たゞ。ち。バ忠勝欽で。いげ
きも。御安恭よりと。さて。う。び。小僕下向せ。卿よ面目。よよ
り。ふく。うと。ひ。うと。あう。に裏の組解て出せ。女の首すく。一挺の錫轔
が。も。安排。て。う。簪卧。う。卿慌忙く。う。揚つ。右見左見て。ふと。是難
タ。こ妹。般。草。い。う。ひ。う。とく。言と。い。そ。が。う。ち。バ忠勝。へ。や。く。よ
頬撻。去年の極月一日の夜。何的ともあら。ど。簪草君の首討て。うち退
き。う。れ。画劇。ふ。園。家の験動。何奴の仕業。う。と。四方ハ隅草と。も行
方。ち。れ。ぞ。志。う。と。率。ハ推せ。が。湯。拠。う。け。と。ば。方。術。と。脚。基。す。も

漢志和君にも御歎ハシバク。卿ハシバク。愛憐ミタレ。妹夫をも。
せめくもほ。御首おのき。モモカセたと。兩ふたより。まくえ。小の弟
有あね。小僕観こまかう。たり。此鞆報ひ。報ほう。常つね。手馴てな。覗のぞ。ひそべ。
あり。ひの体から。おぼへや。たと。みと。そん。り。まゆ。と。まゆ。と。まゆ。
卿ハ跳驚さとくわく。魂たま。ひ。すくと。入い。溢あふ。こ。ほ。譯わけ。ま。あく。すづる。と。まゆ。
やうと。譯わけ。と。おほ。と。忠勝ただかつ。卿きよし。も。ち。る。一。ま。れ。山科家やましなけ。の。出頭あでとう。
守熊もりくま。去年こぞ。霜月しやくげつ。祭まつり。徒た。先さき。を。訪たず。居ゐ。傲うそ。を。面貌めんめう。あく。と。びく。
えまされた。那な。の威勢いぜい。旭あさ。の。昇のぼ。あく。と。まよ。だ。す。と。と。卿きよし。赦免しゃめん。あく。と。さ
枕まくら。に。付つ。ん。と。来臨らいりん。せ。と。度ど。毎まい。に。それ。菓子くだもの。よ。こ。づ。ふ。と。夜よ。更よ。ま。と。も。
饗應こうぎょう。を。ふ。衆しゆ。崇たか。繁はん。叶かな。非ひ。義ぎ。の。婚こん。故ご。自急じき。ひ。う。け。ま。漢志和君。
腰こし。を。こ。く。守熊もりくま。が。言こと懲こころ。し。再な。び。訪たず。あ。ん。だ。ま。す。に。管侍かんし。を。ひ。く。守熊もりくま。

おやと。ふ。怒いかり。か。づ。れ。う。あ。じ。て。み。ち。ハ。不。通。よ。ま。う。き。ぬ。ゆ。氣。却。で。何
と。か。快。く。と。じ。ぱ。お。り。い。届。て。れ。く。せ。ふ。漢志和君。御夫婦。巡慮じゆり。を。ひ。了。時
う。は。い。よ。な。於。椿事つばき。は。あ。ふ。ん。も。も。く。が。と。と。と。鰐草君。と。漢志和君。寢處殿間
の。翻語ひぶ。一。入。晉。て。寝。ち。し。が。師。走。三。日。夜。と。り。ふ。雪。い。と。う。あ。ま。荒。板。戸。音。一。て
人。の。竊。入。一。知。り。の。き。に。更。園。て。う。の。噪。く。ふ。お。と。び。ま。う。ぬ。と。う。や
け。く。卿。ハ。う。く。も。審。み。と。黒。ゆ。ひ。と。ゑ。放。け。く。悄。色。け。と。と。不。意。非
業。の。死。さ。れ。め。ても。那。賊。ハ。漢志和。と。れ。り。ひ。て。殺。害。せ。り。の。お。ん。後。ま。う。け
製。表。の。前。の。る。が。は。う。き。せ。り。そ。の。ゆ。あ。よ。汝。が。や。く。敵。備。を。識。と。れ。ば。時。節。体。ま。ら。て。妹。の
誓。討。ひ。と。も。あ。と。ど。う。の。文。が。え。ま。く。清。考。れ。欲。と。と
。ま。ま。ま。人。の。や。と。ふ。か。よ。ほ。や。と。ま。し。か。ち。て。ま。よ。ほ。と。ほ。げ。ま。ん
る。冬。こ。う。は。以。ま。ま。う。な。れ。ど。や。と。ま。す。が。冥。の。田。長。と。り。べ。と。お。ぬ。く。ほ。ま。と。

冥途へづげよと向へ國やもへとこうあくま。又聲草が辞世のあそび
不審おきど。守熊の恨ばうけ一吾脊漢志和。儻暗討に遇くよりや
と。漫間は更くおのが臥。吾脊は命にかくさんと。さて覺悟やあくはん
されぞ辭世せ哥ゆも詠ゆくらし。不便やとそめゆくと。

こゑとぞふきよぐりよひたすと。おとこ身よねんとみゆかうに
ぬよのうじ吾脊は床。さぞ淋しくも寐たれんと。ぱづら夙捐てまはるい
まよ。感じ入つて軽てうれ首川庵の後園に葬る。千手陀羅尼百遍計
唱て。さりとも平よみもふ

なぐるをとどめとあづまくわう川。さざなうねづかつううおうす
忠勝りふす。その庵の前を川。つるう河もやうと向けとべ。いみねじ。
濟法華陀羅尼に亡者黄泉の道ふゆく。うの間よ川あり。三塗川と曰

あこ渡河しもりよとまき。地獄は大塹餓鬼は塹畜生は血塹等
葬頭川と書されば。妹の頭は葬らる前まゝ川底よみありせて泣き
ど兩のぐく降か。とあづば河水増て。うすす由もあぐんとめぐど
のこまへば忠勝感に堪えられ。卿へ記念の報うら護り。夢魔控と
あくべの諸抱と帰もと。魏の諸ハ截て擾。一絲革の音。ごちふたのび
に泣き。理責てあをき。うの夜ハ伽るあり。丁八尺かくして何を
と平安の譚。の鳴のらるからうど。送よ語りあひて。暮ちよ。黎明
えんき。つひみ。たむか。なむか。なむか。なむか。なむか。なむか。
囚王より奴隸あらて。篁御は石とある。疾ちかうまよといひきと
くうき。とあづば性人と白榜の。生垢附けふ薄色の。色失て。指貫の
こめく。忠勝召具参り。囚王の御へ請じ入。そりふす。不意。昨日
の卿の妹の首とく忠勝の齋とくとろ。とぞる愁傷案とく定く



ゆうと譯もあらん。やハ寛き語りまくえり。ト卿が迎へ。は
そのことより。這曉怪と云ふふみく。ちうるに罪障。ひうろく。宿
業の純多。ざれ恩ふるゆゑ。佛門は入るやのみをなれ。卿は毎
佛經読き。どせくは。佛の道もたゞし。しかじと。不だ。のみゆるよ
招き。まわらと。甚麼して。ちうるん。とほふゆよ柔和の顔色。説く
はよ。あらまよ。御坐まく。足下いのまね。愛をうみまひて。つよよ
異うれ。愛たまふ。がく。たよおつも隨喜の歡。ひよ耐。ど。まづ佛
門よ入んと。なづ。戒師。法諸。じて。十善。戒。法。授。まづ。因王。り。く。の嶼。ふ
は阿彌陀寺。天武帝の白鳳年中。草創の梵刹。ひよ。まづ。頃。ハ
く。看坊。もみく。住僧。は。卿の。まづ。京師。み。知識。多。とり。とも。
空海。昨年入定。あらひ慈覺。去年入唐。して。まご。帰朝。せど。我師

いた。滿慶上人。ハ和州金剛山寺に住く。矢田寺。いふす。草木。大德。近比
平安に。おもすやう。もの聖。法請。招せられ。最も殊勝。な。ト。因王。り。く。這
つ。意。は。悟。つ。卿。儻。我。為。み。勞。厭。つ。今。より。陰。と。平安。に。登。り。那上人
代。誘。引。く。あり。あら。と。残。よ。り。そ。む。す。と。と。皇。人。は。あ。と。兵。太。典膳。公
供奉。を。ん。密。よ。ゆ。と。密。よ。か。ら。匿。努力。親屬。の。ほ。と。う。そ。立。と。う。あ。ひ。そ。
法。の。あ。せ。ゆ。ふ。す。ね。ば。よ。も。不。正。緯。ひ。ち。め。い。ま。忠。勝。ハ。卿。の。代。く。て。嶋。よ。留
止。臣。と。あ。り。け。と。ハ。首。卿。の。こ。ま。り。ふ。思。議。よ。か。く。苦。提。多。起。され。く。ハ。
九。平。安。よ。至。り。上。人。よ。す。う。の。誓。て。誘。引。く。と。と。と。と。と。と。と。
懇。の。こ。ま。ハ。なら。ま。う。牛。寺。兵。太。馬。場。典。膳。行。裝。整。と。ち。卿。ハ。そ。の。ま
啓。行。ま。ふ。因。王。も。み。に。く。ん。と。く。立。づ。忠。勝。ハ。卿。俱。許。ま。へ。殘。念。ハ。千。と
と。と。と。ゼ。お。く。鳴。に。轢。り。ぬ。海。部。郡。の。嶋。前。と。舟。出。て。順。風。に。帆。成。ま。

流され入川私に卒安^{スミヤ}とりふくも。さて忠勝^{タツマサ}の津戸川の庵
に、卿の舟路^{クルマシテ}はまことやむすひ賤^{チヤン}き獨言^{フクモン}。盤草^{ハシマ}の首葬^{シモトス}よ誌
の木を裁^{カス}。さへ竹川の閑^{シラカバ}なほ。透垣^{トウケン}の倒^{ハリ}。傍^{ハタ}ひあじてヨハシム^{ハタケ}りれよ。
あらそん那墳^{ナツボ}の辺^{ハタケ}。女のひと潜^{カモ}とゆくゆゑあるもとべ。あやしくて躬^{ハタハタ}起
出^{ハタハタ}んとゆくに。よし女御^{メイ}ひく庵^{アメニ}に入まれ^{ハタハタ}。うの還迹^{ハタハタ}がみる年記^{ハタハタ}二八今
あまうて僻遠^{ハタハタ}ともいとく美^{ハタハタ}。仰感^{ハタハタ}も麗^{ハタハタ}なり。袖^{ハタハタ}の毛^{ハタハタ}絨^{ハタハタ}と洩^{ハタハタ}てこもろ恍惚^{ハタハタ}に。
忠勝^{ハタハタ}はかわまく壯夫^{ハタハタ}もく思惟^{ハタハタ}もく。とも、よそ隠^{ハタハタ}きらの鳶^{ハタハタ}に。これ艷色^{ハタハタ}
のあくび^{ハタハタ}とすじば。こへ狐狸^{ハタハタ}とぞれ魅^{ハタハタ}とすんと。傍^{ハタハタ}に腰刀^{ハタハタ}竈^{ハタハタ}てよそてりゆ。汝^{ハタハタ}
うふのあくべづくよろ歎^{ハタハタ}すら。女答て。訝^{ハタハタ}すまつほ^{ハタハタ}。妻^{ハタハタ}の縣^{ハタハタ}ぬく圓^{ハタハタ}左衛門^{ハタハタ}
が女めくとすと。去何頃^{ハタハタ}父上^{ハタハタ}とともに卒安^{ハタハタ}よりまくして。晨昏^{ハタハタ}怡^{ハタハタ}こととおま
みもぐ中^{ハタハタ}ふ。けふらの庵^{ハタハタ}へ詣^{ハタハタ}おほひ。君獨居^{ハタハタ}まひて。まややきの憂^{ハタハタ}もまん。

朝魚夕菜の水仕事も。妻に委託あり候と。眞實たゞひごまゐ信
面よ頭と。忠勝勘安堵は。まづ、とすと詰じ入る。かうと因王は女嫁塚
川辯してゆふゆふ潜くと。歎くと。まづふそつゝぬ。とうの轟もワ。つゝへの
やうふれりよへ。女心よそぞあさう。あう。ばまく主君。皇卿。まへ仕て。某よ
仕んと。いふしてまんべくえがひ。女りよや。どめきよもほくわく。かく覗面
よつとえふ。されどりと。岩躑躅。平安に花咲。園。天やあ。そりちよども
みそそめ。わむうげよの。まくらうひて。あほ。も耐をくゆ。ざくば。おふふ
ゆうん。ゆくとも顧。と。影護。ひみえまわく。努力。收車。こく。みゆみ
ゆい。つもぐね舟の便。ゆく。あく。構。も。おほく。覽。せ。下行。水。堤。か
ううの猿。わよ。もよ。月の都の風流に。戀。焦。が。酣。別。てよ。惆悵。し
ゆく。まほ。見。無。據。そ。みえに。まれ。忠勝の威儀。清ひ。系。と。も。い。ま

嫡妻ひつよしのタケモたけも。聆きえきめめられられ。主君おもね。憂愛うあいの黙黙。不ふ。嫁よめとは義引よひひきにして。さうに不寄麗形勢かづらよめいせい。されば女めのへい。打うち悲ひ。涙なみだ。急いそり。渾沌ごんとん。かが。又また。身みありひよ。情じやうみみばら。ま。ま。ま。が。う。よ。も。き。と。え。あ。が。つ。そ。ひ。ど。強つれ面おもて。そ。ぐ。右袖うすく。左袖さく。解ほど。と。も。辨別べんべつ。い。よ。く。ま。ん。じ。妻めのが亡なき。路じゆ不ふ便びん。と。お。ほ。し。ち。ひ。ね。こ。候まわ。忽こゝ々。側そば。劍けん。武ぶ技ぎ。既き。よ。元もと。刺さ。ん。と。ん。忠ちゆう。勝かつ。遠とお。辛から。廡むらわ。停てい。か。れ。短氣たんき。う。ら。こ。と。や。ろ。さ。た。る。も。も。と。ゆ。れ。び。と。と。今いま。け。も。縁えん。帰か。帰か。歸か。洛ら。ま。よ。も。も。う。が。い。ふ。も。も。う。と。く。と。う。又。足下あしあの父ちち。上あがり。も。任ま。四年よ。と。聆き。か。づ。に。游あ。く。平ひら安あん。に。う。う。ゆ。う。ん。う。の。と。は。も。縁えん。あ。ら。ば。親おやの釋し。公こう。う。け。く。の。ら。妹わい脊せきの紅べに。急いそ。歸か。會あ。か。う。と。じ。せ。ん。と。い。ふ。女めの。否なか。を。う。づ。ば。垂たる乳根うぶねの允ゆん。あ。と。ば。そ。と。ご。の庵あ。へ。詣まつ。あ。と。と。華はな。り。い。よ。衙や内うちへ。ま。う。へ。り。そ。だ。れ。

きりかづに侍女わいび入いあり。婆尼ばにゆくよのをと。因王いんのうの使者ししゃに。妻めのまわすて
ま。で。嫁よめす。姫君ひめぎみ諸よ侶りよ疾め御ご帰か。と。促そ。一いつ。圓王えんのうの徵めい。と。き。べ。ゆ。
ま。だ。た。の。う。ひ。ど。督しらべ岳だけ父ちちと。え。も。い。れ。ど。よ。兩りょう婦ふ。ハ。強さすが。小。誘いざな。供うながす。
と。多。少。れ。が。あ。う。う。ば。ま。の。もの。某まことに。恵めぐら。そ。と。の。あ。う。罷まつり出でん。と。う。侶りよ。

小野篁八十萬かけ巻之七ノ上畢

